

佐賀県5大学共同開講

「子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）」の前半基礎ユニット報告

○本年度（平成26年度）、「子ども発達支援士養成プログラム」に受講登録した佐賀県5大学の学生は、表1のように150名であった。

○このプログラムに登録した学生は、所定の実習と科目を履修することにより、「子ども発達支援士（基礎）」（主に短大生）か「子ども発達支援士」（四年制大学学生と卒後プログラムを受けた短大卒業生）の資格が大学コンソーシアム佐賀より認定される。（それぞれの資格の説明は関係ページを参照のこと）

○このプログラムの中で、5大学が共同開講する科目が「子どもの支援Ⅰ（基礎・実習）」である。この科目は前・後学期、各1日の集中講義と30時間の支援実習Ⅰによって構成されている。集中講義を、前半基礎ユニット（講義・グループワーク）、後半基礎ユニット（講義・グループワーク）と呼んでいる。

○支援実習Ⅰの事前指導として、前半基礎ユニットを5月18日（日）の午前と午後、佐賀大学で開講した。他の必修の実習と重なった学生を除く、全員の学生が受講した。



鬼塚 良太郎 准教授
（九州龍谷短期大学）

○午前の部は、講義を行った。昨年度と同様、受講した学生が新入生中心であったので、九州龍谷短期大学の鬼塚准教授が、「発達障害の基礎知識」のテーマのもと、発達障害のある幼児・児童が見せる行動とその背景、そして支援の基本について説明した。

続いて、佐賀女子短期大学の泉支援コーディネーターが保育所勤務の経験などを踏まえながら、「保育所の現状」をテーマに、幼児保育・教育の現状と課題、そして、望ましい保育者・幼稚園教諭とは何かについて説明した。



泉 万里江 支援コーディネーター
（佐賀女子短期大学）

大学名	受講登録者
佐賀大学	18名
西九州大学	42名
九州龍谷短期大学	30名
佐賀女子短期大学	46名
西九州大学短期大学部	14名
合計	150名

（表1 平成26年度受講登録者）

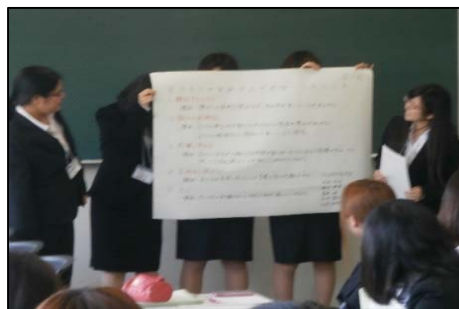


（午前中の講義の様子）

○午後の部は、5大学の学生が大学の壁を越えて、5～6名程度でグループをつくり、午前中の講義も踏まえながら、「子どもとかかわる上で大切なこと」をテーマに、KJ法を使って、グループワークを行った。グループごとに大学教員が指導・助言者としてついた。



(グループワークの様子)

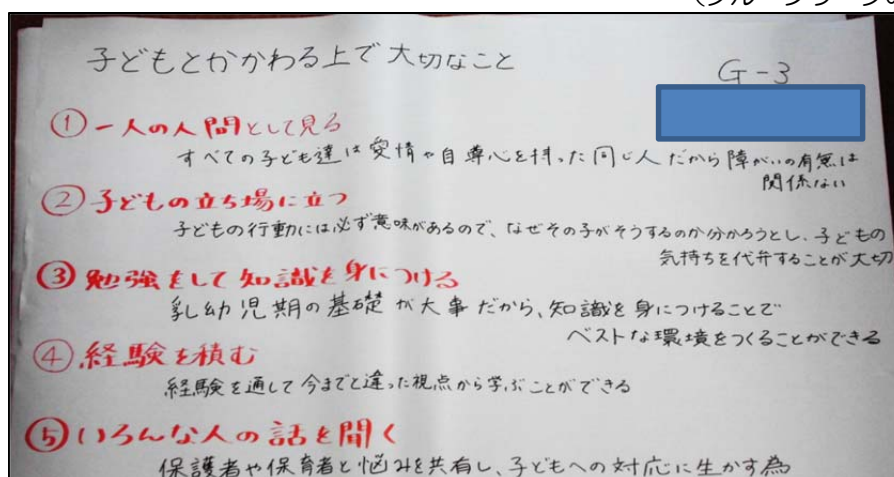


(グループワークのまとめの発表)

○下は、グループワークのまとめの一例である。

これから支援実習1に臨むにあたって、「子どもとかかわる上で大切なこと」として、このグループは5つの点にまとめている。

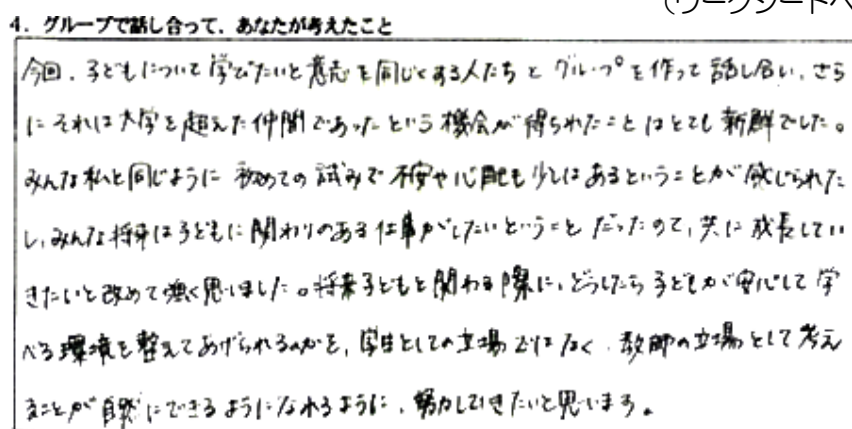
(グループワークの一例)



○下は、ある学生のワークシートの抜粋である。

佐賀県5大学の学生が一同に集まって受講し、グループワークを行ったことに新鮮さを感じ、意欲をもって支援実習Iに臨みたい、と感想を述べている。

(ワークシートへの記述例)



○学生たちは、支援実習I終了後の11月か12月、再度全員が集合し、後半基礎ユニットを受講する。その時のグループワークでは、同じメンバーが集まり、5月段階で大切と思っていたことを、実習を踏まえて、さらに深めた議論をさせたい。